

## 12-12 好景気のときには、労働への需要が雇い主たちに愛想笑いをよぎなくさせ、…

「……陳腐なはなしですが、好景気のときには、労働への需要が雇い主たちに愛想笑いをよぎなくさせ、不景気のときには、彼らは労働の供給過剰をフルに利用してこれらの譲歩のすべてをふたたび取り返します。しかし全体としては、労働者たちの抵抗が彼らの組織の成長とともに増大するので、一般的な状態——平均——はわずかばかり高くなるし、またどんな恐慌も、労働者たちを継続的にゼロ点・すなわち前回の恐慌時の最低点・以下に、またはゼロ点のところまで、ふたたび押し下げることにはない、ということになります。といっても、ひとたび長い、慢性的な、5-6年にわたる、一般的な工業恐慌を経験しなければならぬとなれば、そのときにはどういうことになるだろうか、——それを言うのはむずかしいことです。」⑧-[288]P303-5〔オープンハイムあてのエンゲルスの手紙 1891.3.24 全集 38 巻、47-8P〕

### コメント

エンゲルスはここで、「好景気のときには、労働への需要が雇い主たちに愛想笑いをよぎなくさせ、不景気のときには、彼らは労働の供給過剰をフルに利用してこれらの譲歩のすべてをふたたび取り返す」ことを述べています。つまり、経済成長が実現する中で労働者は安定した雇用と多少の労賃の増加を実現することができ、不景気なとき、経済成長が停滞し相対的に労働力が過剰なときにその全ての成果を資本家に取り返されることを述べています。「安定した雇用と多少の労賃の増加、が実現しないのは、経済成長が実現していないからです。経済が停滞している中で資本家にモラル——ルールある資本主義という——に訴えても実現は不可能でしょう。なぜなら、日本は15年以上にわたる慢性的な経済停滞が続き、エンゲルスのいう「継続的にゼロ点」という経験したことのないところまで労働条件が引き下げられているからです。「安定した雇用と多少の労賃の増加、を実現させるためには経済成長を実現させることが必要条件なのです。